

金子利生さんのライフストーリー

古市、楊

「今までの人生で、一番戻りたい時期がありますか。」

「今までの人生、後悔したことはないから、特にありません。」と言ってにこにこ笑っている金子さんの様子から、彼のポジティブな人生観がうかがえます。この前向きな人生観を持つ親しみやすい金子さんは今までどんな人生を過ごしたのでしょうか。そのライフストーリーにはきっと、魅力的な物語がたくさんあると思います。

秩父別へ…金子さんとの出会い



写真1-冬の秩父別町の様子

風雪の中静かにそびえ立っている記念塔に出会った時は午前10時ごろ、ここは秩父別町、「鐘の鳴る町」です。開発された以来の歴史がまだ短く、明治時代に屯田兵とその家族によって誕生した秩父別には、広大な農地があり、農業が盛んに行われています。雪が積もっていて見渡す限りの平野と、静かで温もりが感じられる町並みというのが、この町に対しての第一印象でした。

静かな町である秩父別町で、自然に恵まれて豊かな生活を過している人々にはどんなライフストーリーがあるのでしょうか。それを探りたい気持ちを持って、私たちは金子利生さんのお宅を訪ねました。

ドアを開けてくださったのは金子さんの奥さんでした。そのまま奥さんにリビングに案内され、電話中の金子さんに会いました。少し奥さんと会話をした後、電話を終えた金子さんとあいさつを済ませ、多少の雑談をした後、インタビューへと移りました。雑談をしてみると金子さんが親しみやすく、気さくな人だと分かり、すぐに打ち解けて話を聞きやすくなりました。

役場から議員へ、町をよくするという気持ち

金子さんは生まれたときから秩父別町に住んでおり、学生の頃も秩父別周辺にある高校に通っていました。高校卒業の際、金子さんは働くことを決めましたが、当時の金子さんは将来やりたいことが明確に決まっておらず、さらには長男という立場であったために親の面倒を見なければいけなかったため、それらを考慮し親元の近くで働ける役場の仕事を選んだのです。

役場に入ってから主には税理職員として、町の税に関する仕事を担当していましたが、秩父別の役場が小規模のものなので他の課との隔たりが無いと、他の職員の

仕事も多数行っていたそうです。このように過去に役場での幅広い経験をしたことにより、議員になってからも役員の立場や役場の仕事を理解することが出来るので、今の議員の仕事も円滑に進めることができるそうです。

議員になってからは秩父別をよりよくするため、役場の仕事を把握したうえで効率よく進めたり、秩父別町民の声を議会や国に届けようとしたり、日々奮闘しているそうです。役場の職員だったころよりも町の人々の意見、願望を聞きやすく実行しやすくなったといいます。また、議員として町民の悩みを聞いたり、相談に乗ってあげたりといったこともしているそうです。

金子さんから見る秩父別～美点そして課題

そんな金子さんに秩父別の一人としてこの町をどう思っているかがあってみました。「平和な町ですね。犯罪もないし、大きい災害もない。まあ田舎ではあるけど、人里から離れすぎているわけでもないからね。」金子さんは秩父別を住みやすい町だと語りました。また秩父別の町に住むことをこうも言っていました、「住めば都」と。秩父別は確かに都会などと比べると施設が少なく不便であると感じるかもしれませんが。しかし秩父別にはある程度の設備はもちろん、子供用の遊び場や温泉施設などもあり、さらに事故や災害、犯罪もないので、周りに左右されることのない自由な生活ができます。そして実際に住むとその生活がいとおしくなるようです。



写真 2-秩父別の特産物展示館

しかしながら金子さんは秩父別町の課題を見出しています。その一つに秩父別外の人からの意見不足があります。例えば秩父別町で生産されている野菜などを町外に売り出すとき、どのように売り出すのか、どんな形で売り出すのか、そういったもののアイデアが秩父別町内の人でのみ考え、提案されているので、なかなか目新しい、そして効率的なアイデアが出ないといいます。そこで秩父別外の人々の意見をもらうことによって、新たな観点から秩父別を見ることができるようになり、今までには考えられなかったアイデアが出てくるようになります。このことから金子さんは秩父別に外国の人を受け入れることで、新しい考えを得ることが出来る、といったことに期待を持っているといいます。金子さんは日々、この町をより良くしようと試みているのです。



写真 3-秩父別名産品 緑のナポリタン

町の未来を託すために...

今までの人生を後悔せず、前向きな姿勢で生活してきた金子さんにとって、自分と町の未来に託したいことは何でしょうか。それを聞いたら、今の生活を愛する金子さんは将来についていろいろな考えがあるそうです。「マンションに住みたい」という個人的な望みもありますが、議員の立場としての望みもあります。彼は68歳まで議員として町のために働こうという気持ちを持っていますが、若い世代の人材への期待をも抱いています。町について、やはり外から秩父別に来た人々との交流が大切だと思っていて、彼らが秩父別に対する印象やアイデアについて聞きたいと答えました。とにかくこれからも、町内のお年寄りの生活を改善することを目指して、町の発展と町民生活水準の向上のため、議員として頑張っていきたいと、彼はそう思っています。

秩父別で生まれ育って、また秩父別で働いてきて、数十年以来ずっとこの町で生活してきました。昔は役場で働いていて、そして今は議員の仕事をしている金子さんは、この町に対する自分なりの考えがあります。彼にとって、ここは平和で住みやすい町であり、秩父別での今の生活に満足しています。しかし、議員の立場から見ると、この町には改善すべき点はまだあるといいます。今後も町のみなさんのために働こうと、彼は決意を表しました。町のために頑張っていて、また町に恵まれている、その様子から人と町との互いに支えあう絆を見ることができました。

楽しかった時間もつかの間、インタビューはこれで終わりましたが、金子さんのライフストーリーと、この町のライフストーリーはまだまだ続いています。そして町と人との絆があるからこそ、金子さんのような住民たちは、勤勉に働いていて、この土地で幸せに暮らしているのでしょう。



写真 4-金子さん夫妻とインタビュー